



Window

2022・3・No37



今回のオンライン交流事業では、子ども達が英語で質問する場面が多く見られました。

今後のNEXT50が楽しみです。



NEXT50

じ あ い さ つ

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？
 年末年始は落ち着いていましたが、急激なオミクロン株の蔓延で、再び自粛を強いられる日々が続いています。当協会でも本年度の活動は不本意ですが、コロナ対策に則した活動に絞って行っています。

NEXT50事業は、子ども達と九州大学留学生をオンラインで結んで行いますし、地域交流部では、「前原校区活動運営委員会」様のご協力により、コロナで困窮した九州大学留学生に支援物資を届ける（裏表紙参照）等、今できる活動を行っています。

さて皆様、突然ですが、私達が日ごろ良く使っている『ありがとう』という言葉の反対語は何かご存じですか？ありがとう（有り難い）の反対語は、『あたりまえ』です。私達日本人は、日々あたりまえのように3度の食事をし、暖かいベッドの中で何の恐れもなく安心して眠りについています。

しかし、世界に目を向ければ、ミャンマーでは軍事クーデターから一年余り、自由を取り戻さずと、人々は貧困の中で戦っています。

また、米軍撤退後のアフガニスタンの惨状は、皆様もご存じの通りです。寒さに震えながら、飢えに苦しむ我が子に何も食べさせてあげられない…。こんなに切なくて悲しいことがあるでしょうか？豊かで平和なこの日本で、生きていられる今の幸せを『あたりまえ』ではなく、『ありがたい』と日々感謝して生きてゆきたいものです。

理事長 田中 陽早

目次 2p NEXT50「前原小学校」
 4p 調べてみよう！「トンガ王国」

3p こんにちは「九州大学 留学生」アメリカ・インドネシア
 5P 事業所紹介「株式会社 吉田酸素」

NEXT50

NEXT50は、留学生と直接触れあい、子ども達に英語への興味を持たせ、交流を深めることで、多文化への相互理解を育むことを目的としています。

本年度は、コロナウイルス感染症防止のため、インターネットを使って、市内の小学校と九州大学工学部の留学生をオンラインで結び交流を実施しました。九州大学工学部准教授の田村先生をはじめ、英語教育コーディネーターの有田先生、その他関係者の皆様のご協力のもと実現しています。

**今回は、前原小学校を1クラス(40名程)ずつ
3回に分けて実施しました。**

前原小学校 6年生

小学生の感想

11月17日

- 台湾とスリランカの有名なものが聞けて楽しかった。どちらも素敵な国だと思いました。
- 日本の方がきれいと思ったけど、ミラーさんやマサコさんの話を聞いて、日本以外にもきれいな国があることに気づかされました。
- 日本と比べてみたら全然違った文化や有名なところ、有名な食べ物があって面白かった。

11月19日

- 世界は不思議に囲まれている。
- 日本と違った文化を知ることができて良かった。
- ネット環境とパソコンが整っていれば、外国ともつながれるので、とてもいいと思う。

11月24日

- 日本との違いを見つけながら聞くのが、とても楽しくて面白かったです。
- 中国やスリランカのことについては、自分でも調べたけれど、知らなかったことがたくさんあって、面白かったし、楽しかった。
- 私たちのために準備してくださって有難かった。勉強になりました。

九州大学 工学部 留学生

11月17日

台湾の文化を紹介し、地域の方と親しくなりたいと参加しました。このイベントに参加できて良かったです。



ミラーさん
台湾



11月17日・24日



マサコさん
スリランカ



日本の子どもたちと、交流する機会がありませんでした。とても面白い経験になりました。全体的に子どもたちは、とても親切で、英語を学び、使うことに、とても熱心だったようです。このイベント/ゲストティーチングはとても楽しかったです。

私が一つ提案したいことは、書いて質問に回答するためのより良い手段を用意することです。

時々、子どもたちの声聞き取りにくいことがあり、子どもたちも私の話していることが、聞き取りにくかったのではないかと感じました。単純なオンライン事業よりも、私たちが話すのを聞いて理解すること、子どもたちが話すことを理解することは、同様にこの交流事業の重要な部分であると思います。

11月19日



ケイシさん
オランダ



11月19日・24日

国際理解教育授業に参加させていただきありがとうございました。生徒たちからの質問はとても面白かったです。また、日本の小学校生活を知ることができ、日本文化への理解が深まりました。



ジョーイさん
中国



こんにちは

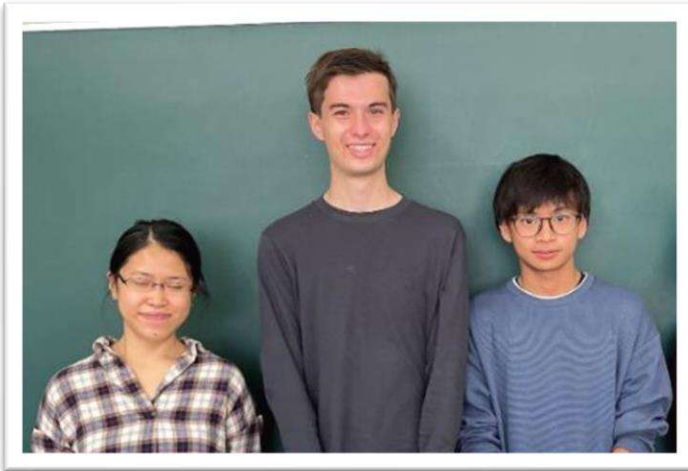
アメリカ

インドネシア

Hello...Halo

ハロー

ハロー



左から、ジオさん、エリックさん、サヤさん
糸島市健康福祉センター「あごら」にて

「あごら」に於いて、月1回「いとしま こども食堂 ほっこり」が開催されており、九州大学の留学生がボランティアとして11名参加しているということで、11月3日にお邪魔しました。NEXT50でもゲストティーチャーとして活躍していたエリックさんやカトリンさんも他の留学生とともにスタッフとして楽しそうにしていました。なかでも、エリックさんは、リーダーとして、他の留学生をまとめる役目でもあります。

エリック： こどもたちと触れ合えることも嬉しいけど、コロナで人との出会いが困難な中、学生同士や地域スタッフの方々と交流できるのも嬉しい。



カトリン： 今日が初めての参加ですが、料理が好きなので調理が楽しみで、やりがいもあります。

エリック： 日本の公民館の存在は、コミュニティがとても大切にされていると感じました。

甲斐(広報)： JA系島女性部のボランティアの方々と一緒に野菜たっぷりのぶた汁や三角のおにぎりづくりに挑戦し、とても楽しんでいるようでした。(おにぎりがうまくできたときは、達成感があるそうで

す)他にジオさんやサヤさんも初めての参加ですが、調理が楽しいし、多くの人と交流できるのが嬉しいそうです。



はじめての
味噌汁づくりに
挑戦中！



カトリンです

最後は、お世話になった
ことへの感謝を込めて、
皆できれいに片付け！
お疲れ様でした♪

いとしま こども食堂 ほっこり

— たのしく学べるみんなの居場所 —

調理や接客など、DIY (Do it yourself -自分でやろう!-)を通して、“つくる、たべる、かたづける、人を育てるほっこり食堂”をスローガンに、小学生から高齢者まで幅広く交流すること。さまざまな体験を通して自尊感情を高めること。学習支援をすることで、学力向上と将来の選択肢を広げることを目的としています。

開催は、健康福祉センターあごらで、月1回実施しています。

代表者： 笹淵 隆広

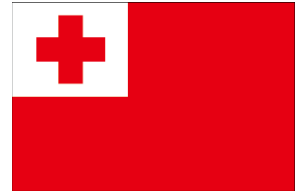
学生代表： 中島夢香・藤元花実

新鮮な糸島の食材で作った料理をお腹いっぱい食べて欲しいとJA系島女性部の皆さんの温かい心が溢れていました！ありがとうございました!!



調べて
みよう!

トンガ王国



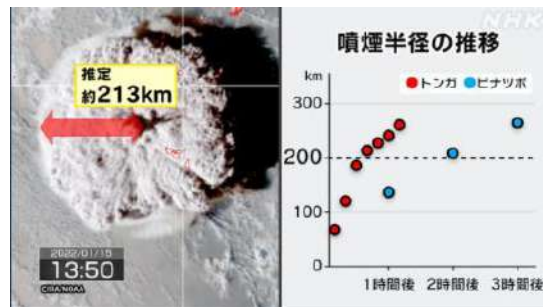
- 首都：ヌクアロファ
- 公用語：トンガ語・英語
- 面積：748 km² (糸島 216.1 km² の 3.5 倍)
- 人口：104,494 人 (2021 年現在)
- 通貨：パアンガ (50 円程度/1pt)
- 主産業：農業、漁業、観光
- 気候：熱帯雨林

1月15日、170 を超える南太平洋の群島からなるポリネシアの王国トンガで、海底火山大規模噴火が発生しました。わずかな時間に一気に地中のマグマが噴出し、世界を震撼させました。地震大国日本に住む私たちも他人事とは思えません。一日も早い復興を願い、トンガ王国について、調べてみました。

1970 年 7 月以来、日本の友好国の一つとして交流を深めています。元来、トンガでは、カボチャを食べる習慣がありませんでしたが、日本での需要が多く、現在はカボチャの栽培が経済の柱となっています。また、スポーツでは、ラグビーが盛んで、ワールドカップでは、日本代表となった選手もいます。

NHK 災害列島命を守る情報サイトから引用

https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/select-news/20220121_01.html



20 世紀最大級とされるピナツポの噴火(1991 年フィリピン)と噴煙拡大速度の比較

東京大学火山噴火予知研究センター鈴木雄治郎准教授(火山物理学)は、衛星画像などを元に噴煙の広がる速度を分析。噴火や津波による被害が複数の島で確認されています。



噴火後



降灰に覆いつくされたビーチ

上記噴火前ヤシの木と下段の写真は トンガ政府観光局から引用
<http://www.thekingdomoftonga.com/>

新聞報道によると、沿岸部の農作物は、津波で海水につかり、農地の回復に数年を要するとのこと。また、内陸部の畑も海に埋まったが、住民がその「火山灰の表面から新芽が飛び出しているのを見た」と、希望を寄せているそうです。

各国から支援物資が届いていますが、変電所に火山灰が堆積し、電力供給は不安定な状況が続いているそうです。新鮮な飲み水の確保が今なお課題となっています。

観光地としても親しまれているトンガです。一日も早く元の状態に戻って欲しいですね。

【文化】



○トンガ舞踊

有名な伝統舞踊のひとつのラカラカは、トンガの歴史と伝説を表現しています。



○料理

伝統的なトンガ料理は、ロプスターと魚、タコ、豚、トロピカルフルーツなどを使って茹でたり、蒸したりします。



○手工芸品

骨や木の彫り物、タバ(樹皮から作った不織布)の製品など、伝統的な手工芸品があります。



株式会社 吉田酸素

- 所在地 糸島市二丈松国 342-6
- 設立日 1991年7月
- 代表者 代表取締役社長 吉田 肇
- 社員数 正社員：12名 / パート：6名

ガスで変えられる未来がある。

今回は、当協会の広報委員でもある吉田まさみさんのご家族が経営されている「株式会社吉田酸素」代表取締役社長の吉田 肇さんを岡山が尋ねました。



作った原稿を確認してくださった
(左から) 澤永氏と広報委員吉田まさみ氏

Q. 会社の業務内容をお聞かせください。

A. 弊社で取り扱っているガスは大きく分けると2つあります。ひとつは、医療用ガスで、もう一つが産業用ガスです。
医療用ガスは、地域の病院や在宅酸素などで使われていて、身近だと思えます。
産業用のガスは、主に自動車整備工場や鐵工所などで鉄の溶接や切断等に使われています。いずれも糸島の高圧ガスセンターや二丈工場で製造し、販売しております。珍しいものでは一次産業の畜産関係で、弊社の液体窒素で牛の細胞保存をするなど幅広く役立っています。

Q. 会社の業務の中で印象に残ったことを教えてください。

A. 在宅酸素をお届けしている患者様から直接感謝の言葉をいただいたり、病院施設などで、弊社の名前が載ったガスを見た時には、うれしくなります。
また、糸島で商売をさせていただいているなかで、お客様に提供する商品が他社と同じ場合は、どうしても価格競争になります。そんな時「吉田酸素さんだから」ということで、弊社を選んでくださる時は、「糸島でやっていてよかったなあ」と感じます。

Q. 時代はコロナ禍ですが、コロナとの関わり方はどのようにしていますか？

A. 特に大きな変化はしておりません。
ガス（酸素）を納める側ですので、在宅ワークなどは難しく、会社を休業することができないのが不安材料です。多くの医療機関に出入りしているため、早目はやめの情報を入手し、先手の対策を打っていかねばなりません。その為、感染症対策には特に力を入れ、手洗い・うがいはもちろん「コロナを持ち込まない・広めない」を徹底して行っています。



会員随時募集中!

会費

1. 個人：2,000円
2. 家族：3,000円
3. 団体：30,000円
4. 事業所：(1口) 5,000円・(2口) 10,000円

※外国籍の方は、会費無料

コロナに負けるな!

「前原校区活動運営委員会」のご協力により、コロナウイルスの影響を受けた九州大学の留学生に協会を通して支援物資を届けました。



前原校区活動運営委員会からお預かりした支援物資は、少しでも多くの留学生に届くことを願い

「Settle International (セトルインターナショナル)」を運営しているセトル株式会社(九州大学の寮・アパートを経営)さまへお届けし、留学生への支援として橋渡しが出来ました。

◀右写真は、岡本修氏(前原校区活動運営委員会会長)から支援物資を受け取る園田氏(協会地域交流部部長)

前原校区活動運営委員会では、新型コロナウイルス感染症により、子どもや子育て家庭をはじめコロナ禍で影響を受けた方へ「困ったときはお互いさま」をコンセプトに支援する取り組みとして、色んな食品や日

用品などが詰まった『前原校区ささえ愛(あい)箱』を配布していました。そのひとつの取り組みとして糸島市国際交流協会にお声かけをいただき、九州大学留学生への支援物資とつながりました。

セトル株式会社

国際村学生寮
Settle International
〒819-1111 糸島市泊 900-3
<http://www.settle-web.com/settle-international/>

イベント中止のお知らせ

開催を予定しておりました国際交流サロン「世界の料理教室」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご参加の皆様をはじめとした関係各位の安全面を考慮し、中止いたしました。ご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

会費納入の御礼

コロナウイルス感染拡大防止のため、開催予定の事業を中止せざるを得ない中、企業会員の皆様をはじめ、多くの個人や家族会員の皆様に会費を納入いただき、誠にありがとうございます。心から厚く御礼申し上げます。

皆様からいただきました会費は国際交流推進のための貴重な財源として活用させていただきます。今後ともよろしくお願いたします。

編集後記

いとしまこども食堂ほっこりとJA糸島女性部では定期的に九大生に対して「フードパントリー」を開催しています。コロナ禍でバイトがなくなったり、仕送りがなくなったり、生活が困窮しているからです。

今では、コロナ陽性者や濃厚接触者となり、買い物に行けず困っている学生もいます。また国の事情により、「帰りたくても帰れない学生」もいます。特に、ミャンマー、ウクライナの学生は深刻です。国を思い、家族を思い、平和な日常へ戻るようにと祈りを捧げます。

「自分たちにできることはないのか？」

まずは、留学生の思いと国の現状を聞いてみたいと思いました。

(広報宣伝部 笹渕)

糸島市国際交流協会会員数

区分	2021年9月末	2021年12月末	増減	
有料会員	個人会員	344	342	△2
	家族会員	40	39	△1
	団体会員	17	17	0
	事業所会員	57	57	0
小計	458	455	△3	
外国人	58	57	△1	
合計	516	512	△4	

糸島市国際交流協会事務局

Itoshima City International Exchange Association
〒819-1116 糸島市前原中央二丁目14番14号
TEL/FAX : 092-332-9166
E-mail : window-kokusai@globe.ocn.ne.jp
URL : <http://www.window-kokusai.com>
事務局の開設日
水曜日から土曜日の10時から17時まで。

